



愛するまち・ひとを守る

鹿児島市消防団

女性消防団団員
阿久根 奈緒さん



学校を卒業してすぐに就職したのですが、日頃から何か人のために役に立ちたいと考えていました。市が初めての女性消防団員を募集することを知り、仕事をしながら活動ができると聞いてすぐに応募しました。消防団のことはよく知らずに入団したのですが、日に日にその活動に興味を持ち、次第に使命感が芽生えてきました。現在の活動は、火災予防週間の広報活動や救命講習会での救急救命士のサポート、小型ポンプのホースを伸ばす操法訓練などを行っています。

災害現場では、最前線での活動はできませんが、応急処置など後方支援活動などできることはたくさんあります。これからも他の23人の女性消防団員の仲間とともに、地域のために頑張ります。



市消防団長
豊永 義夫さん



昭和24年に谷山の消防団に入団しました。当時の資機材は、手押し車に、手押しの消防ポンプを積むというお粗末なもの。雑草が生い茂ったでこぼこ道をわずかな消防団員で「ヨイサ、ヨイサ」と掛け声をしながら火災現場に駆けつけるものでした。

現場までの道のりが長いときは、ポンプを押す余力がなかったこともあります。それでも必死に手押しポンプを使って、地域の皆さん協力もいただきながら消火作業を行いました。

現在は、各地に小型の動力ポンプを積んだ消防車が配置されています。当時と比べると今の資機材の性能は雲泥の差です。

消防団員には、「おいどんの地域は、おいどんが守る!!」という旺盛な奉仕精神があります。また、消防活動に生きがいと誇りを持っています。ときには、消防署員に先行して消火活動を行うのが消防団員。消防団と消防署は、車の両輪のような関係といわれます。今後もそのような関係を築きながら市民の皆さん的安全を守っていきます。



手押しポンプ車と谷山消防団員

鹿児島市消防団の主な歩み

昭和23年8月	消防団令により鹿児島市消防団を組織（18分団・672人）
昭和25年10月	伊敷村と東桜島村の編入により、鹿児島市消防団、鹿児島市伊敷消防団、鹿児島市東桜島消防団の3消防団・29分団に改組
昭和29年4月	3消防団を1団に改組（29分団・67人）
昭和42年4月	谷山市との合併により、40分団・875人となる
昭和52年2月	竜水分団に「竜ヶ水班」、福平分団に「火の河原班」を新設
昭和56年4月	市街地の拡大などで、伊敷分団坂元班を西伊敷分団に、吉野分団坂元班を坂元分団に、田上分団西別府班を西別府分団に昇格（43分団・875人）
昭和62年4月	吉野東分団を新設（44分団・875人）
平成5年4月	武岡分団を新設（45分団・890人）
平成16年11月	周辺5町との合併により、組織の改組（72分団・1,521人）
平成19年12月	女性消防団員24人採用
平成20年3月	消防団協力事業所表示制度導入
平成24年7月	71分団・1,510人（うち女性消防団員24人）